e-CORE Incubation Vol.3

ビジネスで活躍する リーダー育成のための リベラルアーツ

～人間力を高めるための教養～

株式会社イコアインキュベーション

教養を身につけ、魅力的な人材を育成するには？

ビジネス環境が国内からインターナショナル、そして地球規模のグローバルへと移り変わる中で、現在多くの企業様がグローバル人材の育成に取り組んでおられます。また近年では、グローバルに必要な要素としてリベラルアーツという言葉も耳にするようになりました。

そこで今号では、私たちイコアインキュベーションの考える「リベラルアーツ」の重要性と、それを活かすための「人間力」の発揮の仕方についてお伝えしたいと思います。

なぜリベラルアーツが必要なのか、どのようにして身につければよいのか――当社の考えをご紹介します。

◆リベラルアーツとは？

日本では、リベラルアーツを「教養」と訳されることが多くあります。その意味は、「会社生活を営む上で必要な学術・文化・歴史・芸術などに関する幅広い知識や造詣、品位や人格及び物事に対する理解力や想像力に長けていること」などと言われています。

では、なぜ今リベラルアーツが求められているのか？私たちがリベラルアーツについて改めて考えるようになったきっかけは、ある企業様からいただいた相談が始まりでした。その内容は、“真のグローバル人材”育成に向けたリベラルアーツの重要性を社員に理解してもらいたいというものでした。その企業様が求めている“真のグローバル人材”の定義とは、「世界に通用する『教養』と『人間力』に長けた魅力的な人材というもの。すなわち、ビジネスで他国の方々と渡り合っていく中で、「またいつかあの人と仕事したい」と思わせる人。そんな人こそが“真のグローバル人材”と言えるのではないかということでした。「あの人は教養がある」などと言われる場合、洗練された会話や身のこなしができることを示すことが多く、多分に人間的な側面を評価している意味合いが含まれており、当該企業様はこのような人間的な側面においてリベラルアーツの重要性を社員に植え付けたいという思いが強かったものと思われます。

グローバルと聞くと、我々はまず語学や異文化など、相手国に対する知識や理解というところに意識が向きがちです。もちろん語学や異文化を理解することはとても重要であり、グローバルに向けた取組みとしては欠かすことはできません。しかし、相手国を理解する前に、我々は自国である日本のことをどこまで理解しているのでしょうか？日本人として生まれ、日本の教育を受けてきた私たちが、日本の歴史や文化・芸術、更にはアイデンティティ、郷土愛といったものをどこまで語れるでしょうか？日本という国を客観的に見て、他国との違いや日本の宗教観、島国といった地政学上の特性、日本人の能力といったものをどれだけ強みとして発揮出来ているでしょうか？このように、自国に関する理解を深めるのも、リベラルアーツの一環であると私たちは考えます。

◆主体的に培うリベラルアーツ

先にも述べたように、かつて教養は幅広い知識や造詣、人間形成のための様々な修養を含む基礎学問が主流でした。日本でも江戸時代の寺子屋に代表されるように、無償で教育を提供し社会に貢献する取組みが既に行われていたわけです。

経済発展とともに急速な情報社会が進み、必要な情報を必要な量だけ瞬時に手に入れることが可能になった現代において、私たちは便利さと物質的な豊かさを得られるようになりました。しかしこの便利な世の中こそが精神の豊かさや教養の重要性を希薄化させる要因になっているのも事実です。時代の流れとともに、学問の専門化・細分化が進み、教養についての共通理解が失われてきました。

今後日本は少子高齢化が進み、これまで以上に近隣諸国を含めた関係各国と経済のみならず、労働力、食料、エネルギー確保に向け新たな仕組みを構築し、同時にビジネスの場においても勝ち抜かなければならない厳しい時代に突入します。

このような時代を生き抜くためにも、我々は今一度原点に立ち返る必要があり、その第一歩が教養を見直すことではないかと考えます。

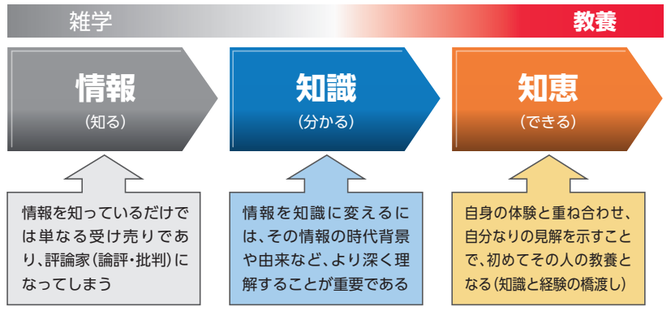
何らかの形で世界と繋がるこれからの時代、自らに身につけるべき教養を主体的に培っていく努力が必要であると思います。

◆雑学から教養へ

情報を知識として学ぶだけでは、グローバル社会で戦うには不安が残ります。いくら知識を持っていても、その人が自分の言葉で語ることができなければ、人の心には響きません。それでは単なる受け売りであり、雑学になってしまいます。情報を知り、知識としてより深く理解し、知識を教養に高めて、それを自分の体験と重ね合わせて「自分なりの見解」を持つことが重要です。取り入れた情報をどう語るか、その真意をどのように伝えるか。自分自身のものの見方や考え方と知識を重ね合わせて、自分なりの見解を示す時に、初めてその人の教養となるのです。（図1 参照）

更にはグローバル社会では、日本の特性や強みを理解した上で発信することが求められ、それこそが「世界に通用する『教養』と『人間力』に長けた魅力的な人材」であり、教養がリベラルアーツとして語られ、注目され始めた訳ではないでしょうか。

■図1 雑学から教養へ



◆「人間力」で人を動かす

自分の見解を持って人を動かすためには、さらに別の能力も必要となります。それが、「人間力」です。

私たちは「人間力」を、次の８つの要素で定義しています。

❶ 使命感：自己のなすべきこと、貢献すべきこと、自分の仕事の意味を考えること（組織の一員、役割の使命感とともに一人の人間としてなすべきこと）

❷ 無私の心：他者を思いやり自己のなすべき貢献を考え、それを優先して行動すること

❸ 人に対する思い・関心：人の存在を、自他を問わず大切に思い、いつも高い関心を寄せること

❹ 勇気：自己の中にある恐怖感を克服して行動に移し、葛藤や対立を恐れないこと

❺ 一貫性：いつも一貫して行動にぶれがないこと、嘘をつかない、言行が一致していること

❻ 公正さ：常に正しくあること、正しいことを行おうと意識して行動すること

❼ 仕事以外の幅の広がり：仕事以外のさまざまな領域についての関心や幅の広がりと、その奥行きの深さ

❽ 自己開示：いつも自然体であること、自己の存在をありのまま表わすこと

これらは本来、誰もが持っている力であり、問題は人間力を発揮できているか／いないかということです。これら８つの人間力は、魅力的な人材としてグローバルで活躍するためにはどれも欠かすことはできせません。中でもリベラルアーツの観点から考えた時に、

■図2 人間力の8つの要素

東谷紳一（人材開発事業部 部長）

井上真理（人材開発事業部 リーダー）

特に発揮すべき重要なポイントは⑦の「仕事以外の幅の広がり」です。

仕事以外に夢中になれるものを持っている人は、魅力的です。グローバルでのビジネスでは、単純に商談だけをすればいいという場合だけではなく、互いに自国の文化や自分の趣味について語り合い、魅力を感じた相手でないと商談ができない場合もあります。世界のビジネスの現場で生きていくためには、仕事以外の幅の広がりは絶対に欠かせません。

また、仕事においても自分の専門領域だけをやっていけばいいという考え方では、奥行きのない仕事しかできません。仕事が細分化している今、“知らなくても仕事をする上では困らない”という知識も少なからずあります。しかし、自分の目の前の仕事のことしか知らない人と、専門外のことにも詳しく、あらゆる関係各者とコミュニケーションが取れる人では、どちらが魅力的でしょうか？

◆全てのビジネスパーソンに求められる「リベラルアーツ」と「人間力」

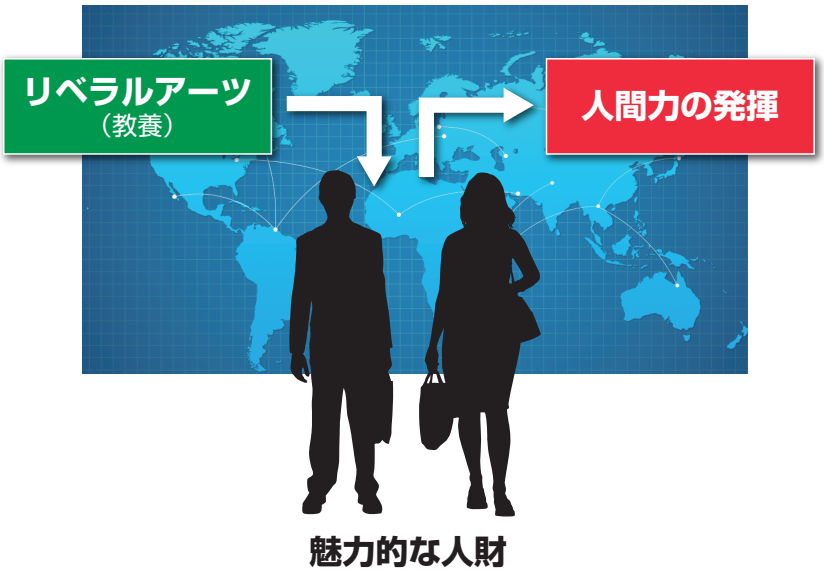
このように考えると、リベラルアーツはグローバルで活躍するためには欠かせない要素であるとともに、仕事をしていく上で魅力的な人材になるという意味でも、全てのビジネスパーソンにとって必須です。特に、人をマネジメントするリーダーには絶対に欠かせないものだといえるのではないでしょうか。

リベラルアーツを身につけ、人間力を発揮し、他者に影響を与えていく――そのためには、五感を働かせ、感性を磨くことが重要です。日本の歴史や文化を学ぶという意味では、本来は学校教育に期待するところも大きいのですが、それが十分に機能していない現代においては、それらを自らの手で主体的に補っていく必要があります。

日本人がこれから世界で活躍できる魅力的な人材になるためには、「リベラルアーツ」と「人間力」は絶対に必要です。私たちイコアインキュベーションは、グローバル人材を育成するために、語学や異文化理解のプログラムと並行して、貴社の人材が知識を自分の言葉で語り、より魅力的な人として人間力を発揮できるよう支援をしていきたいと考えています。知識が知識のままで止まっているとしたら、それは知識が“腹落ちしていないから”です。「なぜ？」を理解することが重要で、そのためには詰め込み式に知識を覚えるのではなく、プロセスを大切にした学びの仕組みが必要です。私たちは企業様と一緒に、その仕組みづくりからお手伝いしていきたいと思います。

グローバル人材の育成を考えている企業様はもちろん、魅力的なリーダー育成、イキイキとした組織作りを考えている全ての企業のパートナーとなりたい――私たちは、そう考えています。

■図3「リベラルアーツ」と「人間力」



株式会社イコアインキュベーション
〒102-0083
東京都千代田区麹町５丁目２番地１　K-WING ビル８階
TEL：03-5275-1751　FAX：03-5275-1752
URL：http://www.ecore-i.co.jp